

制服検討結果（全校生徒・R4.7月）

校内制服検討委員会

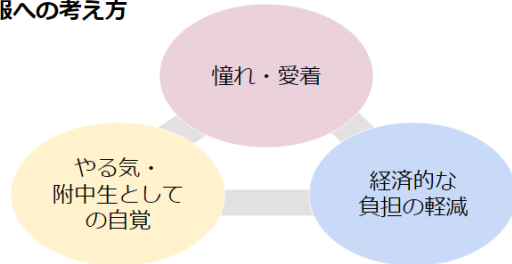
1. 校内制服検討委員会について

メンバー：3年 平井梨咲子（実行委員長） 2年 陣嘉希（副実行委員長） 1年 植松栞（副実行委員長）

生活委員長 加藤拓人

- ・メンバー選考は昨年度末にお知らせし、今年度当初に募集した中で希望した生徒から選考。
- ・必要に応じて「拡大実行委員会」として生徒会執行部および各学級の評議委員を招集する。

制服への考え方



附属中では、以上の理由から制服は必要であると考えている。

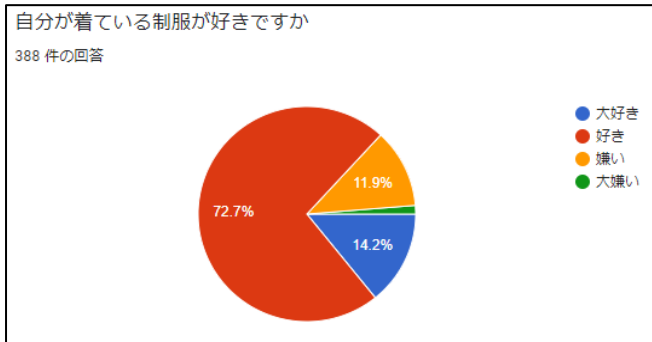
制服検討委員会の意義

急速な社会の変化に伴い、価値観や性の捉え方が変化

保護者・学校関係者から意見をもとにより良い学校生活を送るため、制服の在り方について幅広く検討する

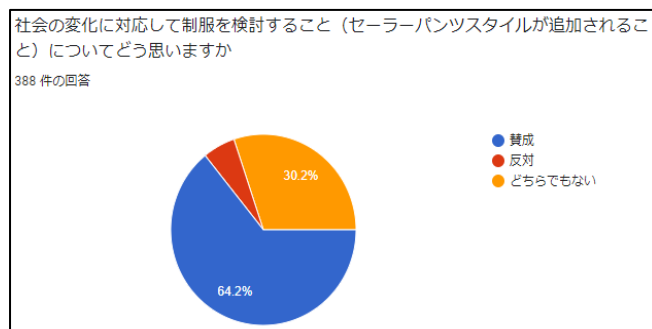
2. 生徒アンケートの結果について（6月20日～6月24日）

○アンケート結果から



「制服が好き」と答えた生徒は 86.9%であり、多くの生徒は附属中学校に愛着を持っている。

記述欄には「附属中学校の制服にあこがれを持って入学を希望した」という生徒もいた。



・賛成 249 人 反対 22 人 どちらでもない 117 人
制服が嫌いと答えた人の半分以上は検討に賛成

・制服の検討に賛成人（249 人）のうち 128 人は着たくない・できるだけ着たくないと答えている（男子生徒がほとんどである）

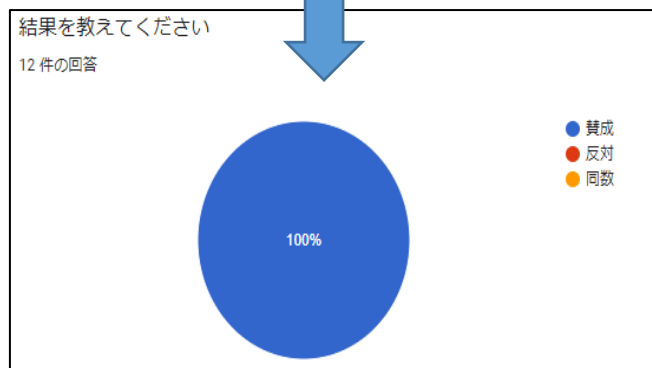
・128 人の内 22 人は着たくない理由としてデザイン面を上げている

・「展示されていた制服（セーラーパンツスタイル）を着たいか」という質問に対して 35%が肯定的な意見。

➡今後デザインをもっと着やすいものにする

※モニターの意見は後述

・学級討議（7月13日）の結果、12クラス全て制服検討の方針に賛成であった。



○自由記述欄に寄せられた質問に対して

質問	回答
パンツスタイルは女子だけなのか	性別に関係なく選択できる
ブレザーにしてほしい デザインを男女ともに着やすくしてほしい	経済面や卒業生の愛着から今の形をできるだけ変えないで検討する デザインの面は今後改善していく予定
制服である必要性がわからない	附中生である自覚ややる気から必要
学ランスカートスタイルはないのか	今後PTAとも話をする予定
体操服で登校したい	衛生面から
黒の靴下を履きたい 靴はローファーのままなのか など	生徒会が検討していく予定

- ・学級討議でも触れているが、男女での縛りはなくなり、自分で機能性などを考えて選択できることを周知したい。
- ・学ランスカートスタイルについては、由布市では採用（予定）。機能性を考えた時にどうか
- ・その他については、今回の制服検討の趣旨とは違う質問と捉えている。

○モニターからの意見集約

- ・7月4日～8日の期間にモニターを希望した生徒（24名）の中から6名を選出して実際に履いてもらった感想を紹介

良い点	自転車通学の際には巻き込まず、漕ぎやすい。雨合羽を着た時に濡れにくい。
	動きやすい。
	雨の日やエアコンが当たる場所では暖かい。
	スカートに比べ、安心感がある（そわそわしない）
	実際に来てみたらスタイリッシュでおしゃれだった。
悪い点	座った時に下着が見えないか心配。伸縮性がない。
	体育時の着替えの際に下着が見えてしまう。
	ポケットに手が入りにくい
	生地が肌に触れる面積が大きいのでスカートよりもチクチクする。
	体型が顕著に分かってしまう。下着のラインが出る。
	暑い。通気性がない。

- ・素材やデザインについては検討をしていく必要がある。（今回は端布でサンプルを作ってもらった）

3. 学級討議をうけて

- ・上記の通り、制服検討の方針については12クラス全てが賛成。反対はクラス内でも少数であった。
- ・体操服登校やブレザーの導入についての意見が出たが、今回の学級討議の内容ではないため議論はしていない。
→本校の特性を生徒、保護者ともに理解をしてもらう必要がある。
公共の交通機関を使うことや、受験をして自分の意志で入学していることなど、PTAに協力してもらい生徒・保護者に確認をしてもらいたい。
- ・制服の検討は校則の検討と違い、一過性のものではない。また、経済的な負担等があるため保護者などの意見を踏まえ、総合的に考える必要がある。
→「子供たちが着るのだから子供の意見を優先して」の見方で考える性質ではないことも確認をしてもらいたい。